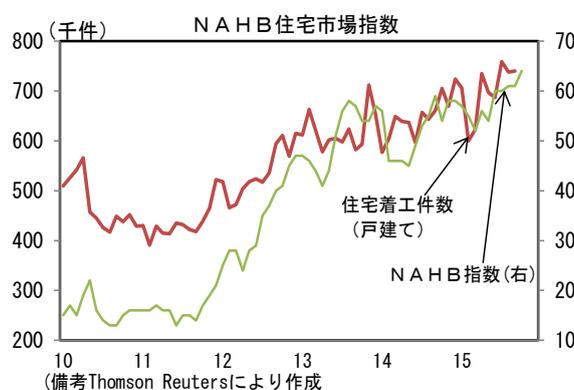
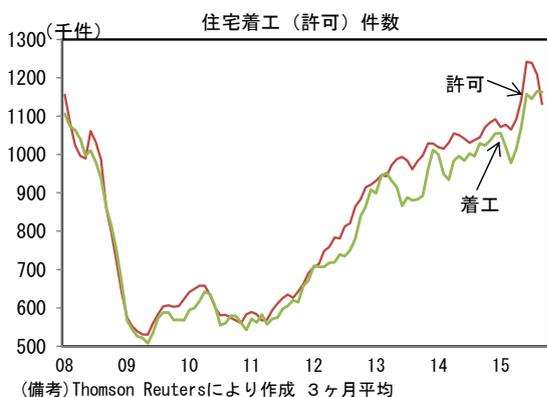




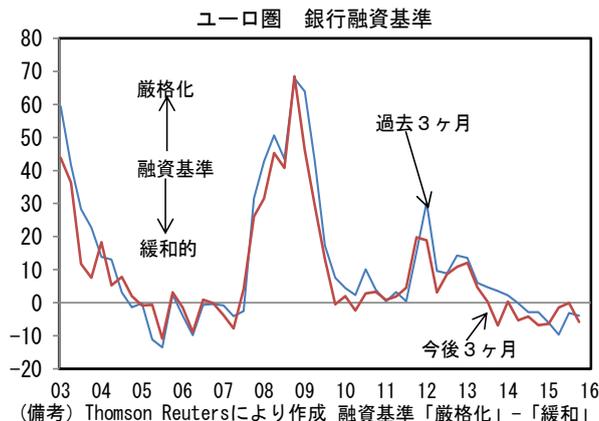
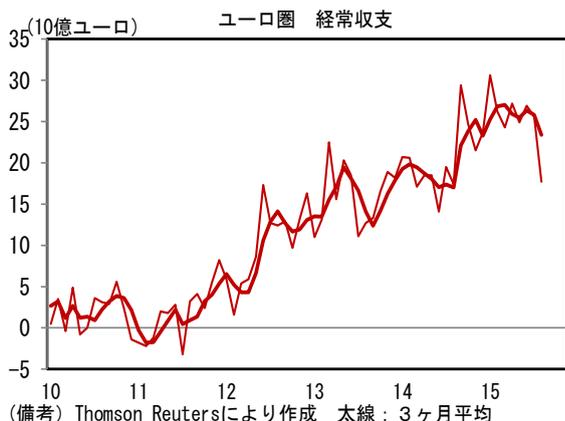
【海外経済指標他】～許可件数増加も基調は確り～

・ 9月米住宅着工件数は前月比+6.5%、120.6万件と市場予想(+1.4%、114.2万件)を上回った。戸建ては+0.3%と小幅な伸びに留まったが、集合住宅が+18.3%と急増。もっとも、戸建てもやや長い目でみれば強いモメンタムを維持しており、旺盛な住宅購入意欲が窺える。一方で同時に発表された住宅着工許可件数は▲5.0%となり、3ヶ月平均でも減少した。振れの大きい指標につき判断が難しいが、NAHB住宅市場指数の著しい改善に鑑みると悲観は不要だろう。同指数は10月に64を記録。これは住宅バブル期の最高点には及ばないものの、住宅市況の活況を確認するには十分過ぎる水準だ。



・ 8月ユーロ圏経常収支は177億ユーロと7月(256億ユーロ)から急減。財輸出が前月比▲5.7%と弱く、財貿易の収支が急減(前月比▲25.0%)。もっとも今回の結果は、休日の変動に伴う季節調整の歪みによって振れが増幅されている可能性が高く、あまり参考にならない。9月データでは反動が出るだろう。

・ ユーロ圏銀行貸出調査によると貸出基準は▲4と融資基準を緩和した銀行が増加。先行きは▲6と一段と融資基準が緩和する見込み。企業の資金需要も増加基調にあり、債務危機で失われた信用創造機能が復活しつつある様子が見て取れる。最近のマネーサプライ統計とも整合的だ。



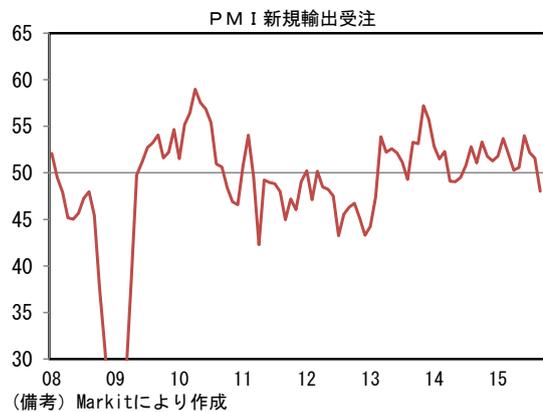
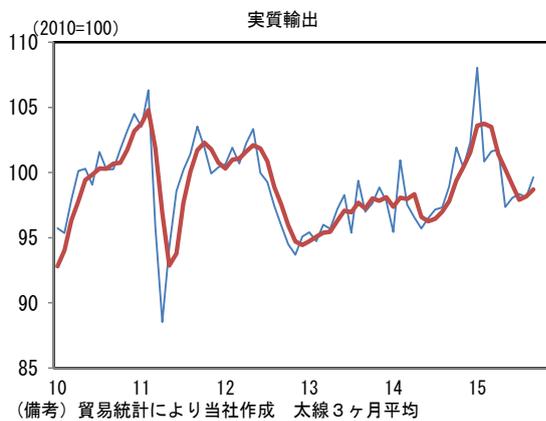
本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

【海外株式市場・外国為替相場・債券市場】

- ・前日の米国株は小幅反落。新規の材料に乏しいなか、個別企業の決算を受けて一進一退の展開。欧州株は大半の国で反落。
- ・前日のG10通貨は乳製品価格下落を受けたNZDの弱さが目立った以外に主だった動きはなかった。USD/JPYは119後半、EUR/USDは1.13半ばで一進一退。
- ・前日の米10年金利は2.067% (+4.4bp) で引け。米債はアジア時間こそ堅調に推移していたが、欧州時間入り後は欧州債下落に追随。欧州債市場は総じて軟調。独10年金利が0.626% (+6.1bp) で引けたほか、イタリア(1.663%、+6.7bp)、スペイン(1.811%、+5.1bp)も金利上昇。銀行貸出調査の結果が一部材料視されたとみられ、結果発表直後から金利上昇。

【国内株式市場・経済指標他・注目点】

- ・日本株はUSD/JPY上昇を受けて小高く寄り付いた後、上げ幅拡大。
- ・9月貿易統計によると輸出金額は前年比+0.6%、輸入金額は▲11.1%、貿易収支は▲1145億円の赤字となった。季節調整値では輸出金額が前月比▲1.7%、輸入金額が▲1.9%とそれぞれ9月の円高進行(8月対比)を背景に減少、貿易収支は▲3553億円の赤字となった。輸出金額は市場予想(+3.8%)を下回ったが、9月は例年より連休が長目のシルバーウィークが攪乱要因となり、予想が難しかったという事情もある。予想比下振れについて悲観する必要はない。為替・物価の影響を除去した実質輸出(当社作成)は前月比+1.5%と反発。四半期ベースでは▲0.4%と減少したが、均してみれば底打ちしている。地域別ではアメリカ向け(+3.9%)、中国向け(+4.1%)、NIEs向け(+2.6%)、ASEAN向け(+2.3%)が何れも増加。先行きはPMI新規輸出受注が軟化傾向にあるため要注意だが、一方で米国向け自動車輸出に一定のボリュームが期待できるほか、機械受注の「外需」が持ち直し傾向にあり、9月工作機械受注でも「外需」が持ち直すなど明るい兆候もある。10月PMI(23日)で新規輸出受注が改善するかに注目。



- ・FEDの利上げ後ろ倒しはUSD/JPY上昇を予想(或いは期待)する向きにとって、少なくとも短期的には打撃となる。実際、FEDの利上げ観測後退を受けて、米2年金利は上昇が一服、USD/JPYも足踏みしている。だが、見方を変えると、FEDの利上げ後ろ倒しは、JPY安サイクル長期化を意味する側面もあるため、それを望む向きにとっては寧ろ朗報となる。筆者は2017年中にUSD/JPYが130-135に達した後にピークアウト、その後は下落サイクルに転換すると予想しているが、その主背景はFEDの利上げ打ち止め感に伴うUSD高圧力の減退だ。利上げ開始が遅れば、FFレートが3.5%近傍(現時点でFEDが予想している中立的なFFレート中央値)に達する時期も遅れるため、その分USD/JPY上昇サイクルが長引く可能性もあるだろう。

<主要株価指数>

	終値	前日比
日経平均※	18407.77	200.62
NYダウ	17,217.11	-13.43
DAX(独)	10,147.68	-16.63
FTSE100(英)	6,345.13	-7.20
CAC40(仏)	4,673.81	-30.26

<外国為替>※

USD/JPY	119.91	0.07
EUR/USD	1.1361	0.00

<長期金利>※

日本	0.318 %	0.004 %
米国	2.067 %	0.044 %
英国	1.855 %	0.033 %
ドイツ	0.626 %	0.061 %
フランス	0.995 %	0.064 %
イタリア	1.663 %	0.067 %
スペイン	1.811 %	0.051 %

<商品>

NY原油	45.55 <small>ドル</small>	-0.34 <small>ドル</small>
NY金	1178.00 <small>ドル</small>	4.70 <small>ドル</small>

※は右上記載時刻における直近値。図中の点線は前日終値。

(出所) Bloomberg

